

鷹取山自然観察会会報

2017.3.12 No.15

鷹取山蝶類について

—2016年調査—

2014年、2015年に引き続き蝶類調査を行いました。蝶は種ごとに違った食草をもち、気候など環境の違いによってもすみ分けをしています。このため、地域の環境を評価するために蝶はよい指標となっています。鷹取山自然観察会では2014年6月から会員により月1度の蝶類調査を始めました。2014年の調査結果は会報7号に、2015年の調査結果は会報11号に掲載しています。

三浦半島は三方を海に囲まれ黒潮の影響を受けるため暖地性の蝶が多く分布しています。横須賀市自然・人文博物館によれば三浦半島には84種が記録されています。このうち、普通にみられる健在種は35種、近年減少または絶滅に迫いやられている減少種26種、温暖化などで増加傾向にある増加種7種、単発的に記録される偶産種9種、外来種7種となっています。

2016年の蝶類調査は、環境省「モニタリングサイト1000里地調査」に登録して、4月から毎月2回行いました。調査結果は国の方にも報告することになりますが調査方法については変わりません。ここでは、2016年4月から11月までの8カ月間に行った調査の結果を報告します。

1.調査方法

調査は環境省自然環境局及び日本自然保護協会における「モニタリングサイト1000里地調査マニュアル」に沿って行いました。調査ルートは植物相調査の図1のコースで行い、植生の違う6区間に分け調査しました。区間の

植生の特徴は図1に記載したとおりです（会報12号植物相調査ルート＜図1と表1＞を参照）。調査頻度は月2度第1及び第3金曜日に行い、調査ルートを歩きながら、目視で判別できる種は記録し、シジミチョウ科、シロチョウ科、タテハチョウ科など同定が難しい種については捕虫網で捕集し、図鑑により確認し記録しました。



写真提供 ヨコスカ織り人 在原香代

2.調査結果

今回は、15回の蝶類調査を行いました。調査日によっては気象条件などにより出現する数に違いがありました。2016年は42種が記録できました。

調査区間の結果から見てみると、A区間は鷹取山公園内で草地の他、クヌギ、コナラの落葉樹とシイなど照葉樹もある区間です。草地にはキタキチョウ、ヤマトシジミ、ツマグロヒョウモンなどが見られました。また、樹林内ではコムスジ、アカボシゴマダラ、モンキアゲハ、ヒメウラナミジャノメなどが観察さ

鷹取山の蝶の年別記録数（ 調査頻度 2014～2015年：月1回 2016年：月2回 ）

	科・亜科	種名	2014年	2015年	2016年
1	アゲハチョウ科	アオスジアゲハ	▼	○	◎
2		オナガアゲハ	△	△	×
3		カラスアゲハ	△	▼	▼
4		キアゲハ	△	×	△
5		クロアゲハ	▼	△	●
6		ジャコウアゲハ	▼	○	○
7		ナガサキアゲハ	△	×	△
8		ナミアゲハ	▼	▼	○
9		モンキアゲハ	▼	○	○
10	シジミチョウ科	アカシジミ	△	×	△
11		ウラギンシジミ	△	▼	○
12		ウラナミアカシジミ	×	△	×
13		オオミドリシジミ	×	△	△
14		ツバメシジミ	△	○	○
15		ベニシジミ	△	○	◎
16		ミズイロオナガシジミ	△	×	×
17	シジチョウ科	ムラサキシジミ	×	△	▼
18		ヤマトシジミ	◎	◎	●
19		ルリシジミ	○	▼	○
20		ウラナミシジミ	×	×	◎
21	ジャノメチョウ亜科	コジャノメ	△	◎	○
22		サトキマダラヒカゲ	▼	○	◎
23		ジャノメチョウ	×	△	▼
24		ヒカゲチョウ	▼	▼	○
25		ヒメウラナミジャノメ	○	◎	●
26		ヒメジャノメ	△	▼	◎
27		クロコノマチョウ	×	×	△
28	シロチョウ科	キタキチョウ	○	○	◎
29		スジグロシロチョウ	△	△	▼
30		モンキチョウ	△	△	○
31		モンシロチョウ	▼	▼	●
32		ツマキチョウ	×	×	△
33	セセリチョウ科	イチモンジセセリ	△	○	○
34		ダイミョウセセリ	▼	▼	○
35		チャバネセセリ	×	△	○
36		キマダラセセリ	×	×	▼
37	タテハチョウ亜科	アカタテハ	△	△	▼
38		アカボシゴマダラ	▼	△	○
39		イチモンジチョウ	×	△	△
40		コミスジ	▼	▼	○
41		ツマグロヒョウモン	○	○	●
42		ヒオドシチョウ	×	△	×
43		ルリタテハ	×	△	▼
44		ゴマダラチョウ	×	×	△
45		キタテハ	×	×	○
46	テングチョウ亜科	テングチョウ	△	×	△
47	マダラチョウ亜科	アサギマダラ	△	×	×

凡例 ×：なし △：1～3頭 ▼：4～10頭 ○：11～30頭 ◎：31～50頭 ●：51頭以上

れました。B区間は住宅地及び児童公園があり、アゲハの仲間やツマグロヒョウモンなどが見られました。C区間はシイ、カシなどの常緑樹の木々が多く、ここではヒカゲチョウの仲間やジャノメチョウの仲間が観察されました。D区間はコナラ、オオシマザクラなどの落葉樹が多い場所であり、アゲハの仲間、コミスジ、サトキマダラヒカゲ、ダイミョウセセリなどが見られました。

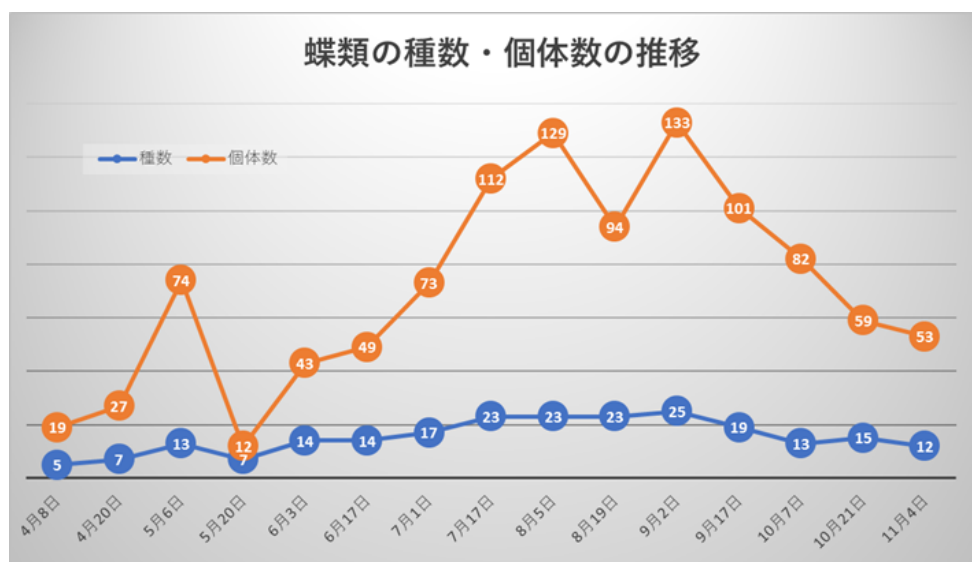
E区間は杉林の林縁でありヒメウラナミジャノメなどジャノメチョウの仲間、ヒカゲチョウなどが多く見られました。F区間は畑地もある場所でモンシロチョウ、ヤマトシジミなどが観察できました。

今年新たに見つかった種はツマキチョウ、ウラナミシジミ、ゴマダラチョウ、クロコノマチョウ、キマダラセセリ、キタテハの6種で42種が記録できました。また、今年は見られなかったものは、オナガアゲハ、ウラナミアカシジミ、ミズイロオナガシジミ、ヒオドシチョウ、アサギマダラの5種でした。このため、3年間の合計で47種となります。

なお、今回オナガアゲハが見られなかったことについては、目視確認のみだったためにジャコウアゲハの雄と誤同定した可能性があります。また、これまで記録のなかったウラナミシジミが秋口に多数出現したことについては、温暖な三浦半島沿岸部からの北上範囲が拡大したものと考えられます。

3.その他

蝶類調査では、観察することにより、絶滅していく種やこの地域で新たに見つかる種もあるかもしれません。調査することは楽しみでもあり、調査を継続していくことによ



て、鷹取山周辺の分布がはっきりしてくると思います。
(三科清高)

<調査に参加した人>

本多久男、中村紀雄、高橋和子、高橋毅一郎、島村健二、金子龍次、石垣正博、竹之下香苗、三科清高（順不同、敬称略）

鷹取山のサクラ・サクラ

小池順子

テニスコートから東屋までの長い坂道はソメイヨシノが植えられていて、3月末から4月上旬は淡いピンク色のトンネルになり、道には花弁が敷き詰められたように散り、上につれ海が見えなかなか風情のある坂道です。ソメイヨシノは山道のコースにも、磨崖仏のあたりもあります。

ソメイヨシノはエドヒガンとオオシマザクラの交配種で江戸時代後期に江戸染井村(豊島区)で育成され、花付きもよく生育が早いことから全国的に広まったといわれています。花柄や萼筒に毛が多く、萼筒はややくびれています。

ヤマザクラも多くソメイヨシノに比べ花の色は白く花が咲くと同時に赤褐色の新芽が出てきます。鷹取山のヤマザクラは大木で、見上げると白い霞雲のような花枝の向こうに青空が見えます。花柄には毛がなく蜜腺は花柄の葉に近いところにあります。



ソメイヨシノの並木



ソメイヨシノと磨崖仏



オオシマザクラ



イヌザクラ

オオシマザクラもあり、暖かい海岸部に生育しこの葉を塩漬けにして桜餅を包みます。花も同じ香りがします。花は白に近い淡いピンク色で花の開花と同時に伸びる新芽は緑色なのでヤマザクラと区別できます。

鷹取山にはイヌザクラも咲きます。イヌザクラはオオシマザクラ、ヤマザクラ、ソメイヨシノに比べ花期が遅く4月下旬から5月頃に花が見られます。高木になる木ですが、京急田浦駅に向かう階段のそばのイヌザクラは近くで花が見られます。樹皮は灰白色で横長の皮目があります。長い花柄に20個ほどの5弁の花をつけます。別名シロザクラと呼ばれ遠目には白いブラシのように見えます。

お花見といえばサクラ、豊臣秀吉が催した大イベント醍醐の花見は慶長3年3月15日（1598年4月20日）に京都の醍醐寺で1300人を招いて700本のサクラを植樹し茶屋なども建てられ盛大な宴が催されました。その様

子は六双の屏風に描かれています。屏風図のサクラの花の色は白く、エドヒガン、ヤマザクラ、カスミザクラなどだったのでしょうか。今の暦で4月20日にサクラの宴を催したのですからこの時代は今より寒かったのでしょう。

日本人にとってサクラは特別思い入れがある花ですが、万葉集にはサクラよりウメのほうが多く歌われています。平安時代になってぱっと咲いてぱっと散るサクラは人の心をつかんだのか古今和歌集にはかなりサクラが詠まれています。

西行はサクラにシンパシーを感じたのか多くのサクラの歌を詠んでいます。晩年の作、一願わくば花の下にて春死なんその如月の望月のころ一 願いどおり、旧暦の2月16日に入寂しています。

西行桜という能の演題があり、[あらすじは以下の通り：京都、西行の庵室。春になる

と、美しい桜が咲き、多くの人々が花見に訪れる。しかし今年、西行は思うところがあって、花見を禁止した。一人で桜を愛でていると、例年通り多くの人々がやってきた。桜を愛でていた西行は、遙々やってきた人を追いつく訳にもいかず、招き入れた。西行は、

「美しさゆえに人をひきつけるのが桜の罪なところだ」という歌を詠み、夜もすがら桜を眺めようと、木陰に休らう。その夢に老桜の精が現れ、「桜の咎とはなんだ」と聞く。

「桜はただ咲くだけのもので、咎などあるわけがない。」と言い、「煩わしいと思うのも人の心だ」と西行を諭す。老桜の精は、桜の名所を西行に教え、舞を舞う。そうこうしているうちに、西行の夢が覚め、老桜の精もきえ、ただ老木の桜がひっそりと息づいているのだった。（社団法人日本能楽協会）]

とても幻想的な作品でサクラの花に対するこだわりがすごいと思います。

サクラはバラ科スモモ属で園芸種だけでも600種以上みとめられ、突然変異も多くまた品種改良に適合しやすい植物といわれています。地名をつけたアタミザクラ、ヨコハマヒザクラ、シュゼンジザクラなど、代を重ねて花を咲かせるように交配し育てるまでには甚大な努力があったろうと思います。

「なぜかサクラが咲くとウキウキしてしまう」という山歩きの仲間がいて、新緑の山にサクラを見てまさに山笑うと感じているのでしょう。各地方のサクラの名所、住宅街のサクラ並木、校庭のサクラ、河岸のサクラ、工場街のサクラ、時代が変わっても日本の景色にはサクラは欠かせない花です。

阿部菜穂子著『チェリー・イングラム』を読んで

市川 實

3月下旬、鷹取山は桜の花が華やかに咲き誇ります。団地の街路樹と鷹取山広場へと続く並木がソメイヨシノの花で一斉に咲く様は

見事です。桜を見に訪れる方もいて、鷹取山はにぎわいます。それから少し遅れて、我が家の窓から見ると、岩の下の斜面のあちこちに白い花が咲き、ここにもあそこにも桜の木があることが分かります。それらは野生のヤマザクラやオオシマザクラで、それはどこの桜を見るよりも美しく見え、春の来たことを実感させます。

私は、30年近く富士山の写真を撮り続けています。2月になると早咲きのカワズザカラやヒガンザクラから始まり、5月下旬の忍野村の八重桜までこの時期の主要なテーマで、次々に開花していく桜の名所を追いつけます。そんな中、横浜の中心、真金町の子供会が世話をする花壇の中に「オカメ」という桜があり、変な名前の桜だと思いました。また大井町の「いこいの村」に「アケボノ」という桜があり、アメリカで発見され日本に里帰りした桜であると札が付いているのを不思議なこともあるものだと思っていました。毎年秋に行う所属グループの写真展に、昨年は桜と富士の写真を5枚出すことにしていました。初め、ソメイヨシノが5枚でしたが、この本を読み、急遽エドヒガン、ヤマザクラ、オオシマザクラ、カワズザクラ、ソメイヨシノに換えました。また、この本を読み、胸の中に引っかかっていた2つのことが氷解しました。

この本の副題に「日本の桜を救ったイギリス人」とあるように、イギリス人でありながら日本の桜を愛し、200種を超える桜を育てたイングラムという方の話です。イギリス人のイングラムは、1902年に日本を訪れ、すっかり桜の花に魅せられて、帰国してから桜の収集をして、なんと自宅の庭に200種を超える桜を集めて桜の園を造りました。新品種の作育にも取り組み、一番驚いたのは、オカメはなんとイングラムが作り出した桜であるということです。また、例えば「タイハク」などという日本では絶滅した種類の桜がイギリスやアメリカから里帰りしていることもわかりました。

桜の野生種は9種類（または10種類）あり



ます。そこから人の手で作られた里桜が400種ほどあるそうです。桜の歴史も栄枯盛衰があり、最も栄えたのが江戸時代で、大名屋敷で様々な種類が作られましたが、江戸時代が終わるとともに多くは失われ、明治の時代はソメイヨシノが隆盛します。そして軍国主義の時代には誤った解釈がされて、桜の花のように散れと兵隊を死に追い込みました。それはソメイヨシノが一斉に咲き一斉に散る性質から生まれた考えでした。そして戦後の復興期、またも植えられたのはソメイヨシノでした。そのため、桜といえばソメイヨシノしか頭に浮かばないようになり、多くの里桜が忘れられ絶滅してしまいました。それは画一的で多様性を認めない社会をつくり出したといえるのではないのでしょうか。

1960～70年代、高度成長時代にできた団

地が50～60年を経過して、植えられた樹齢の短いソメイヨシノも老年期を迎えています。御多分に漏れず、鷹取団地のソメイヨシノの街路樹も2本3本と枯れてきています。あと20～30年で新しい街路樹に生まれ変わるでしょう。その時はソメイヨシノではなく、どんな花が咲く並木になるのでしょうか。その時でも、山の斜面のヤマザクラやオオシマザクラはいよいよ盛んに咲いていることでしょう。

2017年3月-6月の自然観察会予定

予定日	観察会のテーマ	集合場所
3月12日	早春の野草を探して見よう	追浜駅
4月9日	春に咲く花を見つけよう	田浦駅
5月14日	オトシブミを見つけよう	追浜駅
6月4日	イワタバコなど初夏に咲く花を観察しよう	神武寺駅
6月は花の開花にあわせて、第2日曜ではなく、第1日曜日に行います。		

2017年3月-6月の調査会予定日

植物相調査会	蝶類調査会	野鳥調査会
3月24日		3月3日と17日
4月28日	4月7日と21日	4月7日と21日
5月26日	5月5日と19日	5月5日
6月23日	6月2日と16日	

鷹取山自然観察会（詳細はホームページを見て下さい）

HP：鷹取山自然観察会（旧 鷹取山の花と樹）

<http://takatoriyama.eco.coocan.jp/>

連絡先：世話人代表：本多久男 e-mail：takatori_0721@nifty.com